

### 課題3

小中学校合同の行事の際、児童・生徒の発達段階を考慮した内容にするなどの工夫が必要になる。

#### 解消への考え方

- 1 現在も行っていましたが、学年それぞれが、行事のねらいを確実に達成できるように、学年毎のねらいや目標を明確にしていきます。
- 2 行事中での活躍の場や機会を一部の学年に集中することなく、どの学年にも与えていきます。
- 3 場合によっては、行事を全体で行う場面と学年毎で行う場面に分ける二部制で行うことも検討します。

### 課題4

9年間を見通し、一貫性を持たせた体系的な教育活動を行うための計画の作成や準備などに多くの時間が必要になる。

#### 解消への考え方

- 1 教職員間のコミュニケーションを図り、先生方が教育活動に取り組みやすい環境を整えていきます。
- 2 会議を精選し、事務分担の効率化を図りながら、子どもと向き合う時間を確保していきます。
- 3 余裕のある教育活動を実現するために、教職員の配置などについて、教育委員会が十分な支援を行っていきます。

これらの課題については、開校までの準備の中で先進校の取り組み等を参考にし、解決に向けて検討していきます。

## 新しいスクールバスを購入しました

国の被災地通学用バス等購入費補助事業により購入した村の新しいスクールバスが、このたび納車されました。

村では、学校に通学する児童・生徒数に合わせ、また維持経費を節減するため、近年スクールバスの小型化を進めています。今回は、これまでの42人乗りと56人乗りのバスを、10人乗りと14人乗りのワゴン車に更新しました。

この新しいスクールバスは2学期から運行しています。



# 義務教育学校の開校に向けて こんな課題も検討中です



## 義務教育学校の開校に向けて(3)

先月号では、義務教育学校のメリット等について説明しました。今月号では、義務教育学校になった時の課題と、課題解消への考え方の一例を説明します。

### 課題1

学校生活が9年間連続するため、児童・生徒の人間関係の固定化などに対する工夫が必要になる。

#### 解消への考え方

- 1 9年間の学校生活の節目で、入学式や卒業式以外にも特色ある行事の導入を検討し、メリハリのある学校生活を実現しながら、子どもの自己肯定感を高めていきます。
- 2 9年間という長いスパンの中で子どもを見守り、一人ひとりの子どもの個性や実態に応じた指導を行い、子どもの目標意識を高めていきます。
- 3 小中学校合同の行事や異学年交流を日常化していくことで親密な人間関係作りを進め、上級生が下級生の世話を率先してできるようなリーダーシップを育成していきます。
- 4 地域密着型の学校の利点を生かし、学習場面での地域の人材活用や体験学習の充実を図るとともに、小学校での一部教科担任制や小中学校教員の相互乗り入れ授業の導入を検討して、学習の質を向上させ、子どもの学習に対する興味・関心をより一層高めていきます。

### 課題2

授業時間が異なる(小学校:45分、中学校:50分)ため、日課表やチャイムの鳴らし方の工夫が必要になる。

#### 解消への考え方

- 1 小学校と中学校の授業時間が異なるため、一日の学校生活の中では、授業などの開始及び終了時刻にズレが生じてしまいます。そこで、日課表などの作成にあたっては、休み時間や教室間の移動時間などで調整を図り、共通で生活する時間(業間・昼食・昼休み・清掃)を揃えるなどの工夫を検討します。
- 2 チャイムについては、現在、1日に3回(朝の活動開始時、3時間目と5時間目の開始時)鳴らしていますが、義務教育学校に限らず、多くの学校で実施されているノーチャイム制(時間感覚を身に付けさせるためにあえてチャイムを使用しない)の導入も検討していきます。